

郡美矢さん

前編

喜びを見つけてる癖が、喜び事を引き寄せる

日本で数少ないろうの牧師であり、国際手話通訳者として国際会議で活躍する郡美矢さん。

今回から、心軽やかに生きるためのヒントを教えてください。前編は「心のセンス」の磨き方について。

取材・文：小林美香 編集部 イラスト：レイン・ジョン・サイトウマサミ



こおり・みや
1970(昭和45)年、徳島県生まれ。三浦グリーンチャペル(広島県)牧師。筑波大学附属聾学校卒業後、カナダの歯科技工所に就職。アメリカのウエスタン・メリーランド大学大学院卒業後、イリノイ州のろう教会で勤務。2006年に帰国し、牧師を務める傍ら国際手話通訳者として活躍。著書に『あなたは見えなくても愛されている』(角川書店刊)。

私は広島市内にある「三浦グリーンチャペル」という小さな教会で牧師をしています。私は生まれつき耳が聞こえません。聖書のメッセージを伝えるときは手話。賛美歌も手話で歌います。

牧師の仕事の他に、国際手話通訳者として年に数十日、海外を飛び回っています。手話も話し言葉と同様、国によって言語が異なり、世界に約400種の手話があります。私は国

際交流の場などで使われる国際手話と、日本語、アメリカ手話など4か国語の手話ができる、いわゆるマルチリンガルです。

両親ともにクリスチャンだった影響で、子どもの頃に洗礼を受けました。牧師になったのは、父が聖書の物語を手話で語り聞かせてくれた楽しい記憶が原点にあります。私の両親も、ろうです。生まれつき耳の聞こえない父と、8歳のときに病気で耳が聞こえない

なった母の間に3人きょうだいの末っ子として生まれました。次兄もろうなので、家族の中で聴者は長兄一人です。

人生は「踊る阿呆」のマイนด์で

「かわいそうに。また聞こえない子なの？」
「親が聞こえないからね……」

出産後、母は周囲の聴者たちのこんな反応に深く傷ついたそうです。でも、私自身は聞こえないことを悲しんだこともないですし、「聞こえる人生だったならよかった」と思ったこともありませぬ。ろうであったからこそ多くの人と知り合うことができましたし、私の活動は「ろうの牧師」ということで注目してもらえる。決して強がりではなく、ろう者であることをむしろ強みにとらえ、私をろう者にお作りになった神様に感謝しています。この話をすると「苦勞もあつただろうに、ポジティブ思考だね」とよく人から言われます。信者の方からも「どうしたら郡美矢さんのように明るくいられるのか」と聞かれます。確かに、これまで苦勞はなかったと言えれば嘘になります。学校で同級生から聞こえないことをからかわれたこと。ろうであることを理由に薬剤師になりたいという夢を叶えられなかったこと。遠方に暮れたときもありました。でも、苦勞というものはろう者に限ったものではありません。みなさんだって、それぞれの人生

にきつとそれぞれのご苦勞があつたことでしょう。私は、苦勞の記憶もそこから学びを得れば、「あの経験があつてよかった」と感謝の気持ちに自然とすり替わるものだと思っています。

私の出身は阿波踊りで有名な徳島県。一度きりの人生なのだから笑って生きよう、と「踊る阿呆」のマイนด์で生きてきました。ろう者の私が踊る阿呆になれたのは、両親が「聞こえないからできない」と否定や決め付けから入るのではなく「聞こえなくても、あなたなら何でもできる」と常々励まし育ててくれたおかげだと思っています。実際、自ら望んで小学校は普通学級で学び、高校時代は柔道の聴者の県大会で優勝、四国代表に選ばれ全国大会に出場。「できる」と信じたことはほとんど叶えてきました。

私は22歳で新たな可能性を求めて日本を飛び出しました。海外で生活する中で、日本と



欧米のろう者に対する考え方の違いに大きなショックを受けたことを覚えています。

ろう者とは「発達した視覚を持つ人々」

アメリカのろう者団体 NAD (National Association of the Deaf) では、ろう者をこう定義しています。

「発達した視覚を持つ人々」

実際、ろう者は本来聴覚をつかさどる脳細胞が視覚に割り当てられるため、視力が聴者より発達しているという研究結果があります。「できないこと」ではなく「できること」に目を向けて肯定するこの定義に、私はどれほど自信をもらったか知れません。

また、ろうの赤ちゃんが生まれたときの医師の対応でも、驚かされました。日本では、医師は母親に「残念ですが、お子さんは耳が聞こえません」と伝えることが多い。さらに「でも大丈夫です。人工内耳を入れたら、聞こえるようになるかもしれません」と聴者に合わせる提案をします。一方、スウェーデンでは「この子のおかげで、あなたの家には手話という2つ目の言語がもたらされましたよ。お子さんのために手話を勉強してくださいね」と、ろう者を肯定し、母親を前向きにさせる言葉を掛けてくれます。もし自分が母親の立場だったら、どちらの言葉に勇気をもたらすでしょうか。

苦労もそこから学ぶことができれば「あのことがあってよかった」という感謝に自然と変わります。

この2つの国の例に、私は「心のセンス」を感じます。どう感じるのかは事実によって決められるのではなく、思い次第。要は心のセンスにかかっています。悲しみ、苦しみよりも、幸せや喜びに目を向けて生きた方が、人生は断然幸せで面白くなります。

心のセンスを磨くために私が実践しているのが、嫌だなと思うときほど、その中から喜びを見つけることです。喜びを見つければ、自然と笑顔が増えます。すると、どこからか喜び事が引き寄せられるようになります。私が大好きなのは「ドラえもん」が大好きなので、よく笑っているせいか、最近は「ドラえもん」に顔が似てきた「なんて言われること」も。「笑う門には福来る」ということわざにもあるように、笑っていると不思議といい人やうれしいことが寄ってくるものです。逆に眉間にシワを寄せた暗い顔をしていると、誰も寄ってきませんし、うまくいかないことがこ

れまた不思議と続きます。やっぱり人生は「踊る阿呆」でいく方が幸せではないでしょうか。

1匹の羊が教えてくれること

こんな私も、もちろん落ち込んだり悩んだりすることはあります。そんなとき、いつも聖書にあるこのお話を思い出します。とても短いお話です。

「あるところに100匹の羊を飼っている人がいました。放牧中、1匹いないことに気付きました。その人は99匹を置いてその1匹を捜しに行きました」

このお話が伝えたいメッセージは、あなたという存在は必ず必要とされている、ということ。99匹いるから1匹くらいいなくなっても仕方ない、ではない。羊飼いは1匹1匹を大切にしているから、わずか1匹でもいなくなつたことに気付き、そして大切なその1匹を捜しに行つたのです。

「あなたはどこかで必ず必要とされています。誰かに愛されている大切な存在です。だから、安心して。笑顔で生きましょう」

牧師として、一人でも多くの方にこのメッセージを伝えていくのが私の役割だと思っています。

One point advice)

郡さんの幸せを引き寄せる3つの習慣

- 1 鏡の前で
“一番いい顔”を
してみる。

最初はできなくても、続ければ自然にいい顔が出るように。

- 2 苦手な相手ほど、
じっくりと
話を聞いてみる。

「苦手」という先入観で心を閉ざしているだけかも。まず自分の心を開いてみて。

- 3 手荷物は
コンパクトに。
身軽にして動く。

荷物を取捨選択は、「執着」を捨てるいいレッスンになります。

